

2022年11月27日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

ハバクク書 2 : 4

エフェソの信徒への手紙 2 : 7~9

「まことの信仰」

(ハイデルベルク信仰問答 問 20~21) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

<信仰とは>

今日のハイデルベルク信仰問答の主題は「まことの信仰」です。

まことの信仰。ということは、まことじゃない信仰、偽物の信仰があるのでしょうか。わたしは、まことの信仰を持っているのでしょうか。持っていないのでしょうか。信仰とは、いったい何なのでしょう。

わたしたちは、聖書の御言葉に示された通り。神の御子イエスさまが、まことの人となってこの世に来て下さり、御自分の十字架の死によって、わたしたちの罪を贖って下さったことを信じます。そして、この十字架で死なれたイエスさまが、復活されて、わたしたちにも終わりの日に、永遠の命と復活を与えて下さることを信じます。

わたしたちをお造りになった神さまが、このような救いを与えて下さるほどに、わたしたちを愛して下さっていることを信じます。

わたしたちには、ある時期には、何の疑いもなくこれらのことを、救われていることを信じ、ただひたすらに、喜びと感謝をもって過ごすことができます。

しかし、またある時には、わたしたちは神さまを信じていても、疑うことがあります。何も分からなくなることがあります。信じたくない、と思うことさえ、あるかも知れません。

そんな時、わたしたちは、孤独や悲しみを感じます。怒りを覚えることも、あるかも知れません。そして何より、自分の弱さを思います。足元が揺らいでしまう思い。抛り所がなくなるような思い。自分の信仰はだめだ、という、どうしようもない思いです。

信仰は、わたしたちの人生の生き方そのものであり、すべての基準であり、生きること、死ぬことに関わることです。わたしたちの実存と、深く結びついているものです。

しかし、だからこそ、わたしたちがそこで勘違いしやすいのは、自分の信仰が、わたしたちの思いや、覚悟や、心の在り方の変化によって、あるいは人生に起こる出来事によって、強まったり、弱まったりすると考えることです。

わたしたち自身の弱さ、あるいは人生の危機。あるいは怠慢や焦り。それらによって、確かにわたしたち自身はグラつき、揺らぎ、倒れそうになることが何度もあります。

しかし、信仰そのものは、わたしたちによって弱まったり、強まったり、揺らいだり、倒れたりするものではありません。

先ほど読まれたエフェソの信徒への手紙、2：8にはこうあります。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」

信仰によって救われる。これは、自らの力によるのではなく、神の賜物、神さまが与えて下さったものである。御言葉はそう語ります。

信仰は、わたしたちが強めたり、弱めたりするものではなく。頑張っ手に入れるものや、努力や熱心さへの報いでもなく。信仰が、わたしたちを救うのです。信仰が、わたしたちの弱さを強めるのです。信仰が、倒れたわたしたちを癒し、慰め、立ち上がらせるのです。

わたしたちに救いをもたらす、このような「まことの信仰」を、神さまが与えて下さったのです。

### <まことの信仰>

では、わたしたちを救う「まことの信仰」とは、いったい何か。それが、今日のハイデルベルク信仰問答が教えようとしていることです。

まず、問 21 を見てみます。(問 21 を読む) ここには、まことの信仰が、二つのことで言い表されています。一つは、「確かな認識」のこと。もう一つは、「心からの信頼」のことである。そう語られています。

まず、確かな認識。それは、何を認識するかというと、「神が御言葉においてわたしたちに啓示されたことすべてを、わたしたちが真実であると確信する、その確かな認識のこと」であると語っています。

神が御言葉において啓示されたこと。それは、前回の問答にもありましたが、聖なる福音によって、神さまがわたしたちに告げて下さったことです。つまり、神さまに背き、罪の悲惨の中にあるわたしたちを救うために、完全な贖いと義のために、仲保者として、主イエス・キリストがわたしたちに与えられている、ということです。

わたしの罪を赦すために、神の御子が、御自分の命を献げて下さる。このわたしに、救い主が与えられている。それほどに、神さまがわたしたちを愛して下さり、憐れんで下さっている。確かな認識とは、これが、真実であると確信することです。

これが「まことの信仰」の第一のことです。

そして第二に、「まことの信仰」とは、その「確かな認識」のことだけでなく、「心からの信頼」のことでもある、と語られています。わたしのために、救い主を与えて下さった。罪を赦して下さるために、御子イエスさまを与えて下さった。そのことを確信したら、その神さまに心から信頼する。より頼むようになる、ということです。

ハイデルベルク信仰問答は、この「心から信頼する」ということさえ、わたしたち人間の業ではない、と語ります。ここには、「福音を通して聖霊がわたしのうちに起こして下さる、心からの信頼」と語られています。

神さまを信頼すること、心からより頼むことも、神さまの真実を告げる御言葉を通して、聖霊なる神さまが、わたしたちのうちに、この思いを起こしてくださるのです。

このように、「まことの信仰」とは、神さまの真実を確かなこととして知ること。そして、その神さまを拠り所にする。心から頼る、ということです。

聖書の御言葉、聖なる福音を通して、わたしたちがイエスさまの救いを知る時、神さまの愛の確かさを知る時。聖霊なる神さまが、わたしたちに働いて下さり、神さまにわたし自身をすべてお任せすること、すべてをお委ねすることへと、導いてくださるのです。

…わたしたちはどこか、「信仰」、「信じる」ということを、自分の覚悟、自分の信念のように思ってしまうところがあります。信じる、信じないは、わたしが決めることであると。そして信じたなら、わたしがその信じる思いを保っていくことだと。

しかし、聖書はそうは言っていません。「信仰」は、「信じる」ことは、神さまが与えて下さることなのです。

そもそも、わたしたちが何かを信じる、信頼する、という時には、必ずその対象となるものがあります。そしてその対象が、信じるに値するかどうか、本当に信頼できるかどうかは、相手のことを知って見極めたり、あるいは実際の実績や行いを見て、判断しているのだと思います。わたしたちが、信頼するかどうかは、その相手がどのような者かによるのです。

もし仮に、詐欺師がいたとして、この人を信じなさいと言われても、わたしたちは努力して信じる、努力して心から信頼する、覚悟を決めて自分を委ねる、なんてことはできません。その人が嘘つきで、信頼できないと知っているからです。

相手が、誠実で、善良な人なら、裏切るような人ではない、と知っているなら、わたしたちは信頼したり、任せたり、委ねたりすることが出来ます。

だから、わたしたちは御言葉を通して、まず神さまが、どのような方であるかを知らされているのです。それは神さまが、御自分の愛する御子を十字架に架けてでも、わたしたちの罪を赦し、悲惨から救い出し、恵みを与えようとして下さる方である、ということです。

聖なる福音を通して。聖書を通して。この世にまことの人となって来られた、神の御子イエスさまの十字架と復活の出来事を通して。わたしたちはこのことを啓示されています。神さまの真実を、神さまの愛を、約束を必ず実現して下さる神さまの誠実さを、明らかにされています。

神さまはまず御自分から、御自身が、わたしたちが心から信頼するに足るお方であることを、わたしたちに真実の愛を持って向き合っていることを、イエスさまの十字架の死によって、御子の命を与えて下さることによって、わたしたちにはっきりとお示しになったのです。

この神さまの真実を、神さまの愛を、確かに認識するとき、そこに、神さまへの「心からの信頼」が生まれます。これが、「まことの信仰」なのです。

信仰は、わたしたちの思いや、心の強さにかかっているのではなく、神さまにかかっているのです。

問 21 の答えの最後の部分には、こうありました。「それによって」、つまり、その「まことの信仰」によって、「他の人々のみならずこのわたしにも、罪の赦しと永遠の義と救いとが神から与えられるのです。それは全く恵みにより、ただキリストの功績によるものです。」

罪の赦しと、永遠の義と、救いとは。イエスさまの救いは。遠い昔の出来事ではなく、他の人のための出来事ではなく、「このわたし」のためにもなされた出来事である。神さまの真実は、愛は、このわたしにも向けられ、このわたしにも与えられている。

「まことの信仰」によって、わたしたちは神さまの救いを与えられ、このわたしのものとして受け取るのです。

そしてこの救いは、当然、自らの力によるのではなく、「全く恵みにより、ただキリストの功績によるもの」、イエスさまが成し遂げて下さったことなのです。わたしはただ、それを受け取っただけです。

これが、信仰によって救われる、ということなのです。神さまの業によって、救われるのです。神さまが与えて下さる、信仰なのです。わたしのために命を捨てて下さる方が、救いを受け取りなさいと、恵みのすべてを差し出して下さっている。これをわたしたちは、ただ受け取るのです。

<一つになり、受け入れる>

そして、この「受け取る」という行為は、決してわたしたちの為す業、良い行い、功績などではありません。受け取らなければ、死んでしまう。受け取らなければ、滅びる。そのような状況で、与えられた命を受け取ることが、どうしてわたしたちの手柄になるのでしょうか。

でもそれは、そっぽを向いて、腕を組んだままでは受け取れないのですから、神さまの方に向き直って、手を広げて、しっかりと受け取らなければならないのです。

わたしたちが罪の中で、悲惨の中で、呻いて、倒れて、動けなくなっている時に。イエスさまが来て下さり、わたしたちを捕らえて下さり、わたしにすべて任せなさい。わたしに全身を預けなさい。そう言って下さいました。わたしたちは、この方を心から信頼し、すべてを受け取り、すべてをお委ねすればよいのです。

問 20 は、このような問答でした。「それでは、アダムを通して、すべての人が墮落したのと同様に、キリストを通してすべての人が救われるのですか。」

わたしたちは、誰一人例外なく、罪に陥っていることが語られました。そして、すべての人間の罪を贖うために、仲保者として、救い主として、イエスさまが与えられました。

それなら、イエスさまによって、すべての人が救われるのですか？ つまり、2000 年前のイエスさまの十字架と復活によって、全人類が自動的に救われている状態になっているのですか、という問いです。

答えは、「いいえ」です。先ほど申し上げたように、わたしたちは、与えられた救いの恵みを、受け入れなければなりません。神さまが差し出して下さった御子の命を、わたしの罪のために死なれたイエスさまの十字架の死を、大切に、受け取らなければなりません。

だから、問 20 の答えはこう続きます。「まことの信仰によってこの方と一つになり、そのすべての恵みを受け入れる人だけが救われるのです。」

まことの信仰によってこの方と一つになる。つまり、御言葉を通して、神さまの愛を知り、確かに信頼できる方であることを知り、心から信頼して、遣わされた救い主を受け入れる。この方と、イエスさまと一つになる。そこに、救いがあるのです。

この「一つになる」という言葉は、「一つに結び合わされる」という、固い結合を表す言葉です。わたしたちが、罪の贖いを成し遂げてくださった、神の御子イエスさまと一体になる。そうして、すべての恵みを受け入れる。イエスさまの十字架の死が、わたしの罪の贖いであることを受け入れる。イエスさまの復活が、わたしの永遠の命と復活の約束であることを受け入れる。聖霊の導きに従い、御言葉を受け入れる。神さまの愛を受け入れる。

ここにこそ、救いがあるのです。

#### <使徒信条>

さて、ハイデルベルク信仰問答は、「まことの信仰」、神さまが示して下さった真実の内容について、心から信頼すべきことについて、問 22～23 で「使徒信条」を示しています。

これは、代々の教会において、洗礼を受ける時の告白文として用いられてきました。

使徒信条は、教会が、わたしたちは聖書全体に示された、このような神さまを信じている、このような神さまの恵みを受け入れている、ということの、美しい要約と言えます。

ですから、このことをすべて受け入れ、心から信頼します、という告白をして、イエスさまと一つに結ばれていることの目に見えるしるしである、「洗礼」が行われたのです。

この後のハイデルベルクは、しばらくこの使徒信条の内容を学んでいくこととなります。

今、わたしたちも礼拝で信仰の告白に「使徒信条」を用いています。わたしたちは、これを告白するたびに、いつも「まことの信仰」に立ち返り、この恵みの中に置かれていることを確認させられます。そして、わたしたちの神さまがこのような真実なお方であることを、賛美し、ほめたたえるのです。

わたしたちも、「まことの信仰」を神さまからいただいています。聖霊なる神さまが、御言葉を通して、わたしたちの心に信頼の思いを起こして下さいます。イエスさまと一つにされて、すべての恵みを受け取る者とされています。

信仰を与えられ、神さまに身を委ねたなら。イエスさまと一つに結ばれたなら。わたしたちは、この救い主の御手の中にあるのですから。神さまの恵みに、すっかり支配されているのですから。その中で、グラつこうとも、揺らごうとも、倒れようとも、神さまが支えて下さいます。神さまが守って下さいます。神さまが導いて下さいます。

わたしたちは、何度も罪を犯しますが、何度でも恵みの中で立ち返ることができます。尽きることのない恵みを、ずっと与えられ続けます。その中で、わたしたちは、ますます神さまを愛するようになる。ますます確信が強められ、ますます神さまを信頼するようになっていく。それが、信仰者としてのわたしたちの成長なのだと思います。

神さまは、いつもわたしたちと共にあることを、望んで下さっています。そして、神さまの御心は、必ず実現するのです。

わたしたちは、与えられた、たった一つの慰めを、生きるにも、死ぬにも、決して、永遠に失うことはありません。わたしが握力を失っても、手を放してしまっても、イエスさまがわたしたちを手放すことはありません。

生きるにも、死ぬにも、わたしたちのただ一つの慰めは。わたしがわたし自身のものでなく、体も魂も、生きるにも死ぬにも、わたしの真実な救い主、イエス・キリストのものだ、ということだからです。わたしたちは、「まことの信仰」によって、このことを知り、受け入れ、救われているのです。

#### 【お祈り】

天の父なる神さま

あなたが、わたしたちを愛して下さり、御子イエスさまが、わたしたちのために救いの御業を成し遂げ、聖霊なる神さまが、このことを確かであると知り、信頼する心を、「まことの信仰」を与えて下さることを感謝いたします。

わたしたちは、いつも自分の弱さや、苦しみや、罪に、目を、耳を、心を奪われます。それは常に、困難で、切実で、悩ましい事柄なのです。しかしどうか、わたしたちの目を、あなたの愛が現わされた御言葉に、イエスさまに、向けさせて下さい。救いは、あなたから与えられること。新たな力も、希望も、恵みも、すべてあなたから与えられることを、覚えさせて下さい。

そして、約束を必ず実現して下さるあなたに、心からの信頼を寄せ、すべてをお委ねする者とならせて下さい。

わたしたちの、あなたへの愛を、確かさを、信頼を、強め、増し加えて下さい。

このお祈りを、救い主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン